

高岡教区

教区報

2016

3月号

念仏のこころに生きる生活を

寺族青年会発会40周年記念行事が行われる

み、「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」ことを中心に、これらのお寺と僧侶としての責務を担う者として、先人の歩みから学び、今までの寺院と僧侶のあり方を問い直し、自分が僧侶としてどのように人々と向き合っていくのかを考える契機とすることをねらいとして設定されたもの。

去る三月三日(木)、西本願寺高岡会館において、教区寺族青年会発会40周年記念講演会が開催され、会員やOBなど七〇名余りが来場した。

今回の講演会は教区寺族青年会の四〇周年記念事業の一環として行われ、講演会に先立って記念法要が勤修され、会員全員で後夜礼讃をお勤めした。

続いて行われた記念講演では、記念事業の総合テーマである「輝けお寺〜温故知新〜」をテーマに松本紹圭さん(東京教区・「未来の住職塾」主催)が講演された。本テーマは寺院の置かれている現状を鑑



され、教区役職者や歴代会長、OBなど八〇名余りが参加し、四〇周年を祝った。

若手僧侶向けにお寺の経営を指南する「未来の住職塾」を主催している松本さんは、「一言で『お寺の経営』というと、金儲けの手段を追求するものとして、拒否感や違和感を以って受け止められがちです」しかし、経営とは本来、その組織が本分を全うするためのものです」と、安定感のある組織を作ることには仏教が伝わる関係性や環境を築くことにも繋がると提起された。

祝賀会では、記念映像が上映され、往時の歴代会長たちの姿とその歩みを記録した映像が流れると、会場からは歓声が上がるとともに、今は往生された当時の会長や会員たちを偲んだ。

歴代会長による挨拶では、教区の寺族青年会が、社会問題に目を向け、取り組んできたその志と意義について語るとともに、これからの宗門を担う者として、お寺や宗門の中だけに目を向けるのではなく、山積する現代社会の問題に立ち向かっていくと

そして今までお寺の抱える問題を分析してきた経験から、これからのお寺の必須条件として、住職・寺族の器を広げる、組織・寺院経営の透明性と信頼性を高める、受け手視点のコミュニケーション、「本業」の磨き上げ、宗教空間の環境整備(バリアフリー化や冷暖房の設置など)を提案された。

また、講演会に引き続き会場をホテルニューオータニに移して、記念祝賀会が催

された。また、講演会に引き続き会場をホテルニューオータニに移して、記念祝賀会が催



だれもが、地域で、ともに暮らすとは？

「ビハラー高岡」第二回研修会」に約八十名が参加

とされ、当時勤めていた病院を辞め、三人の看護師で始めた

二月二十三日（火）、西本願寺高岡会館礼拝堂を会場に今年度二回目のビハラー研修会が公開で行われた。

テーマは「私とあなたと地域をつなぐ」ことも高齢者も障がいのある人もともにここで生きていく」。特定非営利活動法人このゆびとーまれ理事長の惣万（そつまん）佳代子さん（写真右）を講師に約八十名が参加された。

惣万さんは、動物と人間の違いを「親の介護をすること」と「ユーモア（笑）があること」と述べられ、親や血のつながらない方を介護してきたのも人間にしかできないことや、成田きんさんと蟹江ぎんさんの話を



をされ、長生きさされただけでなくユーモアがあつたことを紹介された。

そして、「富山県で初めてとなる民間の介護施設を開設した理由は、ひとりのおばあちゃんの『豊の上で死にたい』という言葉がきっかけであった」

が、高齢者を、と勢い込んでいた最初の利用者は、高齢者ではなく三歳の障がい児であったと話された。

さらに、年齢や障がいに関係なく、「だれもが、地域で、ともに暮らす」という富山型デイサービスの理念のもと、同じような人だけではなく、子供から高齢者や障がい者と関わりあうことで、一人ひとりが輝くと言われ、豊かな人間関係の中で人は育ち、喜びも大きいと述べられた。惣万さんは、施設で交流をしている高齢者や子供の活き活きとした写真をスクリーンで映されると、その方の施設でのありようを紹介された。

また、戦後、家庭でなくなつたものは、赤ちゃんが生まれることとお年寄りが死ぬことであるとし、その死については、「死は自然なことでは怖いことではない」「老人の死は闘うものでなく受け入れていくもの」「口から食えることができなくなつたら死」と三つの受けとめ方がある。そして今後は、ひとりひとりが身近な死のありがたさを感じる町づくり、死にがいのある町づくりを目指して、今、目の前に困っているひとりを救う活動をしていきたいとまとめられた。

その後、質疑応答では、惣万さんの施設での話についてさらに深く聞かせていただいたり、現在の老人介護施設の問題点についての意見交換をし、研修会が終了した。ビハラー高岡では、公開講座での研修会を次年度も続けていきたいとしている。

新湊組妙蓮寺仏壮Cが優勝

2月21日の日曜日、教区仏壮連盟のボウリング大会が高岡スカイボウルで開催され、14仏壮が参加。1チーム4名の24チームで順位を競いました。

結果は、新湊組妙蓮寺仏壮Cが優勝。準優勝は関野組光慶寺仏壮、3位は新湊組妙蓮寺仏壮Aでした。

「少年指導者研修会」開催

3月30日（水）午後2時より、高岡教区少年連盟の主催で「少年指導者研修会」が開催されます。（詳細は同封のチラシ）

今回は、「対話型」ファシリテーションって？というテーマで宮下和佳さん（認定NPO法人 ムラのミライ専務理事）を講師に「対話型ファシリテーション」について学びたいと思います。

参加費は無料で、どなたでも参加できますので、お誘いあわせの上ご参加ください。

御同朋の社会をめざす運動の「コーナー」

「これからの組活動を考える」

「組主幹「四年間をふりかえって」から」

毎年、教区では年度末に組活動に関する各種報告書の提出をお願いしていますが、今回は「組活動をふりかえる」報告書に「任期四年間をふりかえって」の項目を設定しました。先日、全組の主幹から提出頂きましたので、今号はその内容を一部ご紹介したいと思います。

まず、自身の立場については「自坊においての信頼を得られないと活動の幅を拡げるのは難しい」「特定の人員に負担がかかり、組活動と寺院活動のバランスがとりにくくなっている」「年間の行事をこなすことで精一杯」「今までの活動を継承してきただけの四年間」「主幹というのは何を担う立場なのか、明確な答えを出せないまま四年間が過ぎようとしている」といった切実な声が寄せられています。その原因としては「住職の世代交代」「協力する寺院とそうでない寺院がはつきりと分かれてしまった。廃寺・住職代務などによって実質的な規模も縮小している」「組活動への参加率は相変わらず低く、参加している顔触れはいつも同じ」「寺院運営の基盤が崩れてきている中で、連携を強めるどころかますます足並みが揃わない状況」との分析がなされています。

この様な問題に対しては、「特効薬」的なものは今後も出て来ないと思われます。しかし、「力を合わせていける組織作りが必要」「同年代や若手法中に役割を分担したことによって一人で抱え込んでいた時よりも充実した組になった」「人々の対話の中から、信頼関係を築き、事業を支え合うことが最も大切」「門徒推進員の皆さんから刺激的な意見や行動を与えていただき、僧侶と門徒が同じ方向を目指せばより多くの門信徒の皆さんに伝えられることは数多くあると思えた四年間だった」といった声の中に、新たな光が見えてくる様に思われ

ます。

ところで、今月末で任期満了を迎える組主幹の皆さんは、宗派の機構改革や新しい運動が始まったなかで初めてその役職を担われた方々でした。

「組内で行っていることが門信徒に伝わっているのか、ニーズに合っているのか検証が必要」「重点プロジェクトの実施期間（三年）と主幹の任期（四年）が一致していない」「『れんけん』は研修としては不評だった。どうしたらよいか、方策・対策は分からない」といった、構造や目標設定上の問題もこの四年間で明らかになって来たようです。また、そもその話として、「（宗派の実践運動の）その内実は国家の要請としての『公益性』や『社会貢献』を看板にした宗門組織の保全のための自己宣伝（アピール）運動」との指摘もあります。これらの課題は、今後の中央と教区、組との関係性、どのように連携を図るのか、という点でも重要だと思われます。

また、「近年、徐々に組の財政が逼迫、組活動推進のためには財政基盤の確立も重要な課題」との声もあります。宗派予算が削られる一方で、大きな募財が行われるというのは本末転倒の姿にも感じられますが、今後、どの様に宗派や教区が組に対して財的支援をすべきなのか、という課題は、もう「待ったなし」の状況と言えるでしょう。

四月より新しい組の体制がスタートしますが、「自らが主体的に見出した課題に取り組み、その都度、組全体で反省と評価を共有していく」という当たり前の事を、如何にこなしていくか。組主幹の皆さんの声をお聞きするなかで、そのことが真に問われているのだと、あらためて感じました。

【高岡教区教区主幹 浜野信宏】

これからの日程 (3 / 2 1 ~ 4 / 2 1)

3月		
21	雨晴苑追悼法要	
22	寺女委員会	
23	定期教区会 長寿苑ビハーラ活動 教区コーラス練習日	
24	布教団役員会	
25	仏青教区のつどい	
28	新任保育士研修会・理事会 清光学園理事・評議員会	
30	少年連盟指導者研修会	
4月		
6	雨晴苑ビハーラ活動	
8	龍谷高校入学式	
11	聖典セミナー	
14	常例法座 同朋の会 (会場貸し)	全国講社大会 (本山)
17		仏婦総連盟懇親会 (京都)
18	臨時教区会 組長会	仏婦総連盟総会 (本山)
21	寺女連盟総会・研修会	



ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 kHz.
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

- 3 / 12 (土) : 木下 明水 氏 (熊本県・勝明寺)
「お御法に気付かせてくれたファンレター」
- 3 / 13 (日) : 福山 祐介 氏 (富山教区・覚性寺)
- 3 / 19 (土) : 木下 明水 氏 (熊本県・勝明寺)
「形は変われどご法話は変わらず」
- 3 / 26 (土) : 木下 明水 氏 (熊本県・勝明寺)
「お彼岸の意義」
- 3 / 27 (日) : 未 定 (富山教区)
- 4 / 2 (土) : 木下 明水 氏 (熊本県・勝明寺)
「阿弥陀さまと一対一」
- 4 / 9 (土) : 佐々木 義英 氏
(浄土真宗本願寺派総合研究所教学伝道研究室室長)
「未 定」
- 4 / 10 (日) : 鷲森 昭見 氏 (高岡教区・浄善寺)

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師： 藤井 賢誠 氏
(東北教区・光善寺)

ご講題： 『 未 定 』

午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、2 時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。
一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (175 袋) 8 , 3 0 0 円

・大 箱 (36 袋) 2 , 3 0 0 円

・ 1 組 (10 袋) 5 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0878

高岡市東上関446 高岡教務所内(寺族青年会担当)

Tel. (050)5587-7708(代表) Fax.(0766)21-5152

編集後記

「保育園落ちた日本死ね!」、これは、職場復帰をしようと認可保育園に入園を申し込んだが、落選した母親が書いたある匿名ブログのタイトルです。待機児童問題は、高岡でも五月以降の途中入所、特に三歳未満は入れない保育園もあるようで、兄弟で違う園に通っている子供たちもいるとのことです。

その理由として、保育園の数や定員が少なかったり、働く保育士の不足や低賃金等の理由があげられます。あるお笑い芸人が「子供たちは『金の卵』いやらしい話、うまく育てれば何倍もの経済効果がある」と言われました。ひとつの提起であり、過去、金の卵であった私たちひとり一人が、現在の金の卵を、家庭だけでなく、社会全体でうまく育てることが重要ではないでしょうか。子供にまつわる問題が日本社会で大きな声になることを切に願います。